月刊 書字文化

～日本書字文化協会機関紙No３２～
平成27年夏号　毎月10日発行

一般社団法人日本書字文化協会
代表理事・会長　大平恵理

〒164-0001　東京都中野区中野2-13-26　第一岡ビル3階

電話０３－６３０４－８２１２　FAX０３－６３０４－８２１３

Eメールinfo@syobunkyo.org

ホームページhttp://www.syobunkyo.org

〈　目　次　〉

第四回総合大会公開審査会は９/２６、ゼロホールで　・・・・・・・2
各地で席書地区大会盛況に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
北山幼稚園 30分も毛筆書きに園児ら集中 ・・・・・・・・・・・・・・・5
なかま・川崎木乃葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
東西南北・大路博世・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
ニュース　ひらがなライセンス講習会 in 本部８/１４・・・・・・・・・12
コラム　「こころ」（大平恵理）　「きのう　今日　あす」（渡邉啓子・副会長）「教学半」（池田圭子・教学参与）
「文鎮」（佐藤貴子・指導主任）は休みました。

第4回総合大会の公開審査会は9/26

第4回全国書写書道総合大会（書文協、公益財団法人文字・活字文化推進機構共催）は、今年も文部科学省、小中高校長会、全日本書写書道教育研究会の後援を得て開催されます。参加が小3以下に限定されている「ひらがな・かきかたコンクール」は7月末「全国学生書写書道展」「全国硬筆コンクール」は9月19日(土)に応募が締め切られます。会員に公開される審査会は9月26日(土)、東京・中野のゼロホールで開かれます。

会員総会、懇親会も同時開催

今夏の中央審査会は、ゼロホール（中野区立もみじ山文化センター）美術ギャラリーで午後1時から、行われます。中央審査委員会(小森茂委員長)の委員を中心に、専門委員として席書地区大会責任者、書文協スタッフで構成し、厳正な審査を行います。

写真は前年の審査風景

昨年度から始めた会員への審査会の公開は、今回も続けられます。大会では団体審査(一次審査)を認め、これを尊重することにしていますが、公開審査は各団体の審査力アップと審査過程をガラス張りにする狙いから行うものです。

審査会見学希望の会員は、書文協にお申込み下さい。審査の議決権はなく、あくまでオブザーバーですが、書写書道教育の権威者が揃う中央審査委員と交流していただきます。

第2次5カ年計画を会員総会で説明

審査に先立ち午前10時30分から、ゼロホール学習室で27年度会員総会を開催します。総会では書文協から第2次5カ年計画（２０１５－２０１９）について説明します。

書文協が中野に本拠を置いてから5年が経ち、様々な改善・改革が本格的に進められています。例えば、現在2通りある硬筆の楷書、行書の検定コースを1本化し、中学生の段階から行書に触れる新・硬筆検定の創設及び具体的内容についての説明、討議です。

会員の皆様の教場で役立つことが諸改革の目的です。審査会終了後、ゼロホールもみじ茶屋を借り切って懇親会が開かれます。申し込みされた方には懇会会費等、追ってお知らせします。

親昨年の懇親会風景

（アクセス） ゼロホールはJR中央線・地下鉄東西線中野駅の南口から、線路沿いに新宿方面へ徒歩約8分。途中に書文協本部があります。お寄りください。

第4回総合大会　席書地区大会盛況に開催予定

席書が大変効果があることから、席書の普及に力を入れることになりました。単独団体主催の地区大会や学校単独開催が増え、参加者は増えそうです。「席書時間（提出作品決定などを含め30分）に印のある用紙に手本を見ないで書く」などのルールを守れば、個人席書も認められます。参加者には全員、書文協ブランドとして吉見出版株式会社（愛知県）が開発した「こふでならし」（実用新案特許取得済み・写真）が贈られることになりました。

また、中学生以下でも、公募の部は半切で応募できます。書文協では大会の構成を整備し、ブロック大会、中央大会の開催などを検討しています。書文協本部大会事務局にお気軽にお問合せ、申し込み下さい。

第4回総合展席書の部地区大会開催予定一覧

月日	地区大会名	開催地	大会責任者
7月19日	兵庫明石	明石市民ホール	大路博世
7月22日・24日	東京東	横川二丁目会館	桑島智子
7月29日	愛媛松山	コープ久米店　組合員活動室	大六良子
7月30日	静岡東部	杉山バラ園　エルローザ内	新井河舟
7月31日	昭和女子大学中高部	東京世田谷	及川道子
8月 2日	東京中央	中野ゼロホール	大平恵理
8月 2日	愛知岡崎西	宇頭公民館	片桐純子
8月 2日	愛知刈谷	小川学園	深谷守一
8月 9日	和歌山	東部コミュニティーセンター	美濃渓梅
8月 9日	大阪南	LICはびきの	寺本麗鳳
8月 9日	大阪中央	朝倉珠算塾書写教室	朝倉明子
8月 9日	東京青梅	青梅市大門市民センター	渡邉啓子
8月13日	高知		岡田慶子
8月17日	徳島	渭東コミュニティーセンター	泉令峰
8月17日	東京足立		土田花薄
8月20日	宇都宮	YAPスクール	高野佐和子
8月22日・24日	福岡福津	福津市宮司コミュニティーホール・カメリアホール	飯田茂深
8月23日	大分杵築	ショッピングセンター神田楽市2Fホール	安部啓二
8月23日	大阪北		植西由賀
8月25日・27日28日	千葉船橋	早苗教室	石井貞子
8月28日	明誠学院高等学校	岡山	筈井淳
8月29日	福岡中央	大宰府市長浦台公民館	松本美智代
8月29日	三重四日市	あさけプラザ	今村恵美
8月30日	群馬桐生	群馬桐生倶楽部	大澤元代
8月31日	北海道		更科淳子

全国硬筆コンクールで腕試しを

年齢不問で開かれる硬筆コンクールは、文字通り硬筆全国一を競うものです。書写の実用化が叫ばれる中で硬筆の大事さが増しています。奮ってご応募下さい。

こ

こ

ろ

書文協会長　大平恵理

特　訓

ギラリと真夏の日差しが照りつけた７月１２日、書文協恒例の夏の特訓が中野ゼロホールで始まりました。７月末までの計７日間、朝から夕方まで１日４コマが組まれています。代々木のオリンピックセンターでお泊り合宿の２９日は、夜まで練習が組まれているハードさです。

初日のこの日は、実数で約４０人が来ました。新潟、山梨など遠方からも参加。書塾の先生、就活に追われる大学４年のお兄さんなど年齢も立場もいろいろです。最年少は幼稚園年中組みのＲちゃんで、書を始めてまだ２ヶ月です。

Ｒちゃんはお母さんと一緒に来たのですが、なんと始めて３０分ぐらいでお母さんが姿を消しました。「先生、大丈夫でしょうか」と不安げなお母さんに、私は「大丈夫ですよ」と携帯番号を交換して送り出しました。Ｒちゃんは、ぐっと口を結んで、八つ切りと取組んでいます。初めての床書きです。

１時間のお昼休み。お母さんから電話が入りました。「Ｒちゃん、お母さんよ」と呼びかけたのですが。Ｒちゃんはなんと首を振りました。「ということです」という私の耳に「まあ、Ｒったら」というおかあさんのはじける声が飛び込んできました。その声には少し戸惑いもふくまれているようにも感じました。普段甘えん坊の変身がうれしくもあり、ちょっぴり寂しくもあったのでしょうか。

お昼のお弁当もしっかり１人で食べられたＲちゃん。２コマ正味１８０分をやり通して、お母さんと一緒に帰って行きました。「自立」の１歩を踏み出したＲちゃんは、後半でもう２コマ申し込んでいます。特訓のＲちゃんに会うのが楽しみです。

北山幼稚園毛筆プロジェクト

30 分の授業を集中して学んだ！！

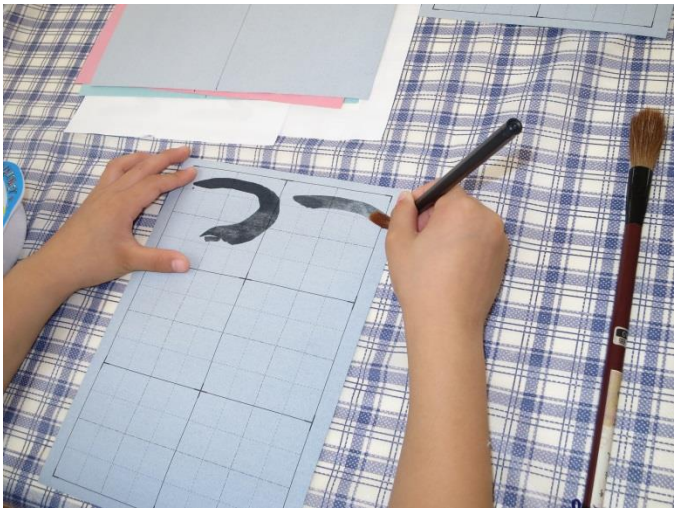
学校法人北山幼稚園（東京都府中市西原町３‐３‐４）で行なわれている年長児の毛筆一斉指導授業を６月 23 日（火）、全日本書写書道教育研究会（全書研）の先生方ら 12 人が視察しました。この授業は修学前幼児の文字書きについての社会貢献事業として全書研理事長、長野秀章・東京学芸大名誉教授（元・文部科学省初中局教育課程課教科調査官）の指導助言を得て進めています。

授業参観の後、意見の交換会が行われました。いくつかの課題が鮮明となりましたが、30 分の毛筆授業を園児らが集中力を切らすことなく続けたことに驚きの声が強く上がっていました。

全書研の先生方が授業参観

授業は４月から、年長児 103 人（うち女児 53 人）を対象に、正課の中で月 2 回火曜日に行なわれています。1 回 120 分を当てていますが、児童らは 6 班に別れ、順繰りに各班 20 分ずつ池田講師の指導を受けます。

この日の授業は 5 回目。研究授業としてじっくり見てもらうため、最初の 3 班だけを対象とし、40 分にわけて 3 回授業を行ないました。間の 10 分は入れ替え、来賓の休息などに当てましたが、30 分の授業に園児らがどう反応するかが心配されていました。



「えんぴつ筆」で水書き

この日の授業は午前１０時半から①正しい姿勢の保ち方②正しい筆の持ち方③筆の慣らし方④硬筆、毛筆の理解、を中心に進められました。③以外は過去４回の授業でやってきているので、おさらいとなりますが、いずれも基本中の基本。「左手ポン」の掛け声で左手の位置を定めることから始まって、握りこぶしを腹の前後に入れて腰骨を立てる練習など、地味なおさらいが続きました。筆は書文協ブランドの中筆「恵風３号」を使いましたが、硬筆と毛筆を比較する学習では、新しく開発された「えんぴつ筆」も使われました。

この授業を参観したのは、以下の通り。

＜大学研究者＞長野秀章・東京学芸大学名誉教授、宮絢子・東京家政大学准教授（全書研専門委員会委員長）、廣瀬裕之・武蔵野大学教授(副理事長)

＜小中学校＞並木玲子・葛飾区立渋江小校長（都小学校書道教育研究前会長）、玉置克也・葛飾区立南奥戸小校長、土上智子・　江戸川区立大杉第 2 小校長、大胡利一・千葉県木更津市立八幡台小校長、村田町子・川村学園川村小副校長

＜えんぴつの国・ペンシリア＞田中直子（キッズステージ社教務部）、今井直人（同社取締役）

＜書文協＞大平恵理（代表理事・会長）、池田圭子（教学参与）、渡邉啓子（副会長）

夏休み明けから墨書に

授業後の意見交換会

授業後の意見交換会ではいろいろな課題が指摘されました。最後に長野教授が「硬筆と毛筆の橋渡しを学ぶことと、伝統文化（毛筆）に触れることの二つを同時にこの授業で目的にすることは難しい」との見解を述べました。

書文協ではこれらの意見を参考として、北山幼稚園での試みに取組んでいきます。

夏休み明けからは、いよいよ墨書にする予定で、園児への毛筆指導の課題はますます増えていきそうですが、園児らの毛筆書きに対する興味関心の高さが確認できたことは大きな収穫でした。

全書研５６回東京大会（８/２７）で池田が取組み発表予定

残り３班の授業は６月３０日、実施されました。

このプロジェクトの様子は、8 月 27 日、東京・十条の東京家政大学で開かれる全書研 56 回年次大会で授業講師の池田圭子・書文協教学参与が発表します。

教学半

書文協教学参与　池田　圭子

お名前の練習も忘れずに

いよいよ今年度も大会のシーズンがやってきました。今年も頑張るぞ！という人、今年こそ頑張るぞ！という人、さまざまかと思います。どんな人達も大会に参加することになると、まずは今年の課題が気になったことでしょう。そしてたくさんの練習を重ねて、練習も後半になってくると、つい気になってくるのが学年氏名ですよね。ついつい後回しにしてしまいがちですが、大会では学年氏名がとても重要です。学年氏名は、字形だけではなく、中心が通っているか、字の大きさがそろっているか、課題に対して丁度良い大きさか、配置は良いかなど、注意しなければいけないことが沢山あります。そして毛筆の場合は、細筆を上手く使えるかも大きなポイントです。

課題は上手なのに、学年氏名が…。という人が多いのは事実です。自分のお名前ですから、毎日のように何年も書いているはず、上手く書けて当然のはずですが、お名前が苦手という人も多いようです。難しい文字、画数の多い文字が使われている人は苦労しているようです。地道な練習になりますが、学年氏名だけの練習を今年は去年より多めにやってみませんか？そして仕上げた作品に繰り返し学年氏名を入れて、遠くから見てみましょう。学年氏名がちょっと良くなっただけで、作品の見栄えがぐっと変わることでしょう。

きのう
今日
あす

書文協副会長　渡邉啓子

「我以外皆我師」

地元の文豪、吉川英治の代表作「宮本武蔵」に出てくる言葉です。

私としても好きなことばのひとつであるとともに、常日頃実感しているものです。

人それぞれ立場も違えば、目線も違います。目線や意識を変えることで、人格にまで影響を与えます。　特に子どもは純粋・柔軟。「そんな発想もあったか・・・」と思うことも多々あり、驚かされます。

ある地域で保育園が合併されることになり、跡地のことで住民が話をしています。

「ホールだけでも残して地域の集会場にしてほしい。」

大人たちの中ではそれが中心の話で、話はそこで止まっていました。

その話を傍らで聞いていたのは、３月に保育園を卒園して、なったばかりの小学一年生。

「遊具だけ残してほしい。」

遊具だけ？　なぜ？　やっぱり子どもだなぁ・・・

と、思っていた瞬間

「遊具だけ残して、公園にしてほしい。ホールもあればもっといいけどね。」

そうか、その目線か。大人の話はホールなど建物のことばかりで、遊びのことは見えていなかったなぁ…。

それって大切なことに違いない。たしかに安心して遊べる場所がない。子どもの何気ない一言で、見えなかったものも見えてきます。

大きくアンテナを張って、様々な目線・角度から学んでいきたいものです。

なかま

木乃葉という愛くるしい名前で人気者の川崎木乃葉さん（１５）＝東海大学付属望星高校１年、東京青梅市在住＝も高校生。最近では積極性も増し、お姉さんになった。特に、３月に表彰式があった第３回伝統文化大会の書き初めコンクールで文部科学大臣賞を取って以来、すっかり字もうまくなったし、練習もより熱心になった、と言う声が仲間うちで高い。川崎さん（写真）は書文協書写書道専修学院青梅教室所属。さっそく直撃インタビューした。

――木乃葉ちゃん、書写書道やダンスは何歳からやっているの。

川崎　書写は小学１年生から、ダンスは２年生からです。

――ダンスで東欧まで行ったって聞きました。

川崎　はい。中２のとき、ロシアの隣のミンスク（ベラルーシ共和国の首都）に２週間、ダンスの練習に短期留学しました。

――最近、書道もダンスもやる人が増えているんだよ。なぜだか知ってる？両方とも身体表現だからだね。書写書道も身体表現なんだよ。

川崎　なるほどね。

――ところで、どうして文部科学大臣賞取れたんだい？

川崎　青梅の７中の仲の良い子で、とてもお習字がうまい子がいたのです。中学のうちに絶対にその子に勝つんだと思って頑張ったら、いつもより２ランクほど高い賞に入っちゃった。

――なるほど。それ以来、字が上手くなったと皆が言うのだけれど、どう思う。

川崎　自分ではそうは思いませんけど、練習のときの集中力、気合はずいぶん変わったように思います。

――それはどうしてなのかな。

川崎　文部科学大臣賞にふさわしい人でいたいと思うから、かしら。

――なるほどねえ。ところで、将来は何になりたい？

川崎　バレリーナ。

――小さいときからずいぶんやってきたからね。夢は大事にするんだよ。いろいろな悩みにぶつかると思うけれど、夢さえ強く持ち続けていれば、たとえ回り道や無関係なことをやっている様に感じる時があっても、必ず納得できる何かにつながるからね。それが「生きる力」といって、いま学校が一番皆の身につけたがっていることなんだよ。

東西
南北

兵庫県明石　大路博世

妹の母娘（左）と

夢の宝塚はプロ集団

私は宝塚歌劇（女性だけで作られる夢の世界）のファンである。彼女達は高い競争率の音楽学校に合格し、厳しいレッスンを重ねて初舞台を迎える。服の着こなし、ポーズの決め方等、十年生でも、日々努力し研究を重ねて精進している。そんなプロ集団であるので、舞台人としての資質はハイレベルであり、美しい。それと、応援するファンもまた、規律正しく、お行儀がいい。入りや出待ちでも（宝塚では楽屋に入るジェンヌさんを直接見る事が可能である）きちんと整列してお見送りする。中々興味深い光景ではあるが・・・。

私はショーでの男役の黒燕尾服が大好きで「あー格好いい！」とため息が出る。この年令になって目がハートになり、心がときめくなんてなんと幸せなことかと思う。地方公演も予定が合えば出かけ観劇する。初めての土地を訪れて観光し名物を頂く。こういう時間を過ごせるのも、宝塚を応援しているおかげで、実に楽しい。

宝塚歌劇の夢の世界を楽しんで、美しい物を見て、元気をもらい、また明日から家事も仕事も頑張るぞ！！

中３書道男子に想う

入学式を終えて間もない頃、小学校一年生の男の子が入会してきました。生まれて初めてのお稽古事で、お母さんから離れられず、一人残された一時間は壁に向かってすわるだけでした。その男の子は身体も二倍（！？）程に大きく成長し、今年中学三年生です。部活に勉強にと忙しい中、通い続けてくれています。残念ながら今まで大きな賞の受賞はありませんが、文字を書く姿勢と力は確実に身につけてくれました。私にとって幸いな事は、小学生から中学生、高校生と通い続けてくれる子供達の成長をみる事ができ、「継続」というすばらしい力を日々実感出来るという事です。

週一回狭い自宅でのお教室ですが、通って来る子供達には、筆に墨をつけて半紙に向かう集中力と、書き終わった時の達成感を味わって、日本の伝統文化である書写書道を続けてほしいと願っています。その事は、きっと生きていく力になると信じていますからー。

えんぴつ指導者ライセンス講習会 in 中野本部

毎月第 3 日曜日に常設

今年 8 月のみ 14 日(金)開催

幼児期の文字書き指導に当たる人、生涯教育の場としての勉強会で講師役を務める人らに人気の「えんぴつ指導者ライセンス講習会」を、毎月第 3 日曜日に東京・中野の書文協本部教室で開きます。人にえんぴつ(硬筆)書を教える資格があることを書文協が責任を持って証明するものです。

ライセンスは 5 段階。1 日 6 時間の講習を受け、最後の修了試験に合格すればライセンス（資格）が取れます。ライセンスは新級・初級・中級・上級・秀級。講習では、ひらがなの語源、歴史などにも触れ、修了試験では実技以外に常識問題もだされますが、懇切に講習しますので、最初の新級指導者は高い合格率で取得できます。中には最初の講習では再上位ランクの中級指導者までいく人もいます。

1 回の講習会の定員は 24 人。先着順に受け付けます。段階を追ってのライセンス取得応援も充実させていく方針です。学校や幼稚園・保育園、書塾で指導者を養成するシステムに組み込んでいただけます

同講習会 in 中野は 8 月に限り 14 日(金)に開催します。お盆休暇の最中となりますが、奮って応募ください。

大澤直也氏が黄綬褒章を受章

群馬県桐生市で書写書道教室を開く大澤元代先生の夫で木工師の大澤直也さんが、今年春の褒章で黄綬褒章を受章しました。直也さんは父の工場全焼という苦難を乗り越え、木工一筋に歩んできた職人さん。大澤木工所を営むほか、群馬県建具組合連合会の会長を務めています。

一方で桐生市の社会教育委員を務めるなど、広く社会貢献活動を行ってきました。手筋の技にかける書写書道にも似た職人魂の持ち主であり、公共性への揺るぎない信念の持ち主として、書文協の相談にも乗っていただいています。